

望ましい集団活動の活性化と自主的・実践的な態度を育てる特別活動の在り方
～小規模校における特別活動の実践を通して～

日立市立東小沢小学校

1 はじめに

本校は、全校児童11名の小規模校である。児童同士は互いをよく知っており、仲良く活動することができる。しかし多人数での人間関係を経験していないため、様々な場面での対応力が不足している。教育活動の中で、意図的な人間関係の構築のための場面設定を取り入れていく必要があると感じられる。

2 資料

(1) 縦割り班活動

ア 仲良しタイム

毎週火・木の2日間の中休みを「仲良しタイム」と位置づけ児童全員で遊ぶ。遊びの内容は、作戦会議を開いて決定する。



イ 縦割り班清掃

2つの縦割り班に分かれて月に一度、清掃箇所を交代する。月初めには、6年生を中心に班全員で話し合い、清掃分担表を作成し、担当箇所の清掃を責任をもって行えるようにする。清掃後には毎回反省を行い、良かった点や課題点について振り返りをしている。

(2) 児童会活動

ア 東小沢っ子カップの開催

児童が主体となって、異学年交流を目的として開催される。全校鬼ごっこやゲーム大会、クイズ大会など、計画委員会を中心に児童の創意工夫により企画される。

イ 人権集会

友達当てクイズや、ふわふわ言葉の発表などを行う。



(3) クラブ活動

ア 4～6年生、6名による活動。文化系や運動系など、月ごとに活動内容が異なる。1つのクラブに全員所属しているため、それぞれの児童の興味や追求したい内容を話し合っ



3 成果と課題

- 縦割り班清掃では、6年生を中心に振り返りの活動を入れることで、上級生が模範を示す行動を意識できるようになってきた。
- 東小沢っ子カップやクラブ活動も、活動内容が限られてはいるが、児童の意見が反映されやすく、創意工夫が見られた。
- 人権集会では、小規模校ならではのひとりひとりにスポットをあてる時間を十分に確保できたことで、自分と友達の良さを再確認できた温かい時間をもつことができた。
- 進んで動くことができる児童が多い一方で、自分本位に行動してしまう場合もあるので、自分本位と自主性の違いについて、考えさせる場面を設定していきたい。